

地球温暖化による北海道の気候変化と対策

世界の気温は、1891年以降、100年あたり約0.7℃と地球の歴史上例を見ない急激な勢いで上昇しています。

北海道の気温も、7地点（札幌、旭川、帯広、網走、根室、函館、寿都）の平均では100年あたりおよそ1.59℃の割合で上昇しています（下図参照）。

また、アメダスの観測によれば、短い時間に激しく降る雨の回数にも増加傾向が現れるなど、雨の降り方にも変化が見られます。

これらの変化の主な要因は、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの増加による「地球温暖化」であると考えられます。このまま温暖化が進行した場合、将来の北海道の気候はどのようになるのでしょうか。

今後の温室効果ガスの排出・増加のシナリオはいくつかあり、今以上の温暖化対策を施さず最も高い程度で温室効果ガスが増え続けるとしたシナリオの場合、21世紀末には20世紀末と比較して次のようになると予測されています（いずれも北海道を含む北日本日本海側・太平洋側の予測）。

- 年平均気温が5℃程度上昇
- 大雨（日降水量100mm以上）の年間発生回数が2倍程度に増加
- 激しい雨（1時間降水量30mm以上）の年間発生回数が3倍程度に増加

このような地球温暖化による気候の変化が、熱中症の増加や大雨による災害の増加、農作物の収穫量の低下など、さまざまな分野へ影響をもたらすことが懸念されています。

このことから、地球温暖化への対策として、節電などエネルギー消費をできるだけ少なくし二酸化炭素の排出を抑制する「緩和策」をさらに講じるとともに、地球温暖化に伴い生じるさまざまな影響へ備える「適応策」も推進していく必要があります。

